

大津市農業振興ビジョン第3期改訂(案)に対する意見内容と本市の考え方

1 パブリックコメントの実施結果

- (1)予告期間 令和7年12月15日(月) ~ 令和7年12月19日(金)
(2)意見募集期間 令和7年12月22日(月) ~ 令和8年 1月16日(金)
(3)意見の提出者件数 2名(メール:2名)
(4)意見総数 2件

2 意見の内容と本市の考え方

お寄せいただいたご意見を次のとおり項目ごとに整理し、それに対する本市の考え方を明らかにします。

該当箇所			ご意見内容	ご意見に対する本市の考え方
連番	章	ページ		
			<p>具体的な取り組みとして、給食に地元の食材を出す他市はあるが大津市では過去を振り返っても見たことがない。大津市の特産がわからない。広報活動の効果が出ていない。 大津でも北は田んぼで実際に稲を植えるニュースはみたが南では見かけない。 後継者問題として、大津市を離れる若者が多い。大阪や京都で働き滋賀は安いからと移住するベッドタウン状態。 住宅の近くに田んぼや畠があれば若い人でもやる。田んぼを造成して家ばかり建てすぎ。ダブルワークできる環境を整えあげることも必要だと思う。</p>	<p>学校給食における地元食材の活用については、第6章に記載とおり進めてまいります。いただいたご意見については、今後の施策の推進や事業検討、情報発信の工夫等において参考とさせていただきます。</p>
			<p>大津市のことについて分かりやすく記載され、私のように他府県から移り住んだ者にとって大変勉強になりました。また大津市は努力されているものの、滋賀県や全国に比べの多方面にわたり、不利な状況にあることも理解できました。産業別の生産額が全体の0.1%という数字や、小規模経営、後継者不足、荒廃農地の割合の高さなどについてです。今後の重点方針として「小規模農家への支援」「後継者不足の対応」を柱に据え持続可能性を高める、と記載されていますが、以前から指摘されていたことのように思います。</p> <p>この改訂(案)は、農業の将来像を今までの経験を踏まえてあるべき方向性を示す指針が具体的に書かれたもので大変勉強になりました。4章、5章、6章が夢物語で終わらないようにこの改訂(案)を多くの大津市民に見ていただき関心を持ってもらえるように。広報活動に力を入れてください。(私の勉強不足で、広報紙に何か記載されましたら失礼します)</p> <p>第8章が目次にはありましたがあ、資料には不掲載で残念です。</p>	<p>パブリックコメントは、本ビジョン(案)に示す施策の方向性や取組の考え方について、市民の皆様から幅広くご意見をいただくことを目的として実施したものです。</p> <p>第8章(参考資料)は計画内容の理解を補足するものですが、本ビジョン(案)の趣旨や施策の方向性自体を左右するものではなく、意見提出に必要な内容は計画本文に記載していることから、添付は行っておりません。</p> <p>なお、いただいたご意見は今後の施策推進や情報発信の工夫等において参考とさせていただきます。</p>